



特別講演会

平成25年 制度改正の動向と 介護支援専門員の役割を見出す

一般社団法人 日本介護支援専門員協会
会長 鷲見 よしみ先生



1月11日(土) 新前橋の群馬県社会福祉総合センターにて特別講演会が開催されました。前半は「制度改正の動向と介護支援専門員の役割を見出す」というテーマで、一般社団法人 日本介護支援専門員協会会長 鷲見よしみ先生の講演がありました。

鷲見先生は歯科医であり協会の会長という多忙な役職にしながら、富士河口湖町でケアマネジャーをしています。また厚生労働省の介護保険部会の委員でもあるため、次の制度改正の動向について私たち

ケアマネジャーにとってとても興味深い情報を時間の許す限りたくさんお話いただきました。

まず制度改正の大きな背景には医療保険が関係している事、ケアマネジャーは介護保険枠内の役割だけではなくっていく事、という話から始まり、地域包括ケアシステムにおける市町村の役割やシステム構築に向けた4つの支援については、わかりやすい言葉を使って説明してくださいました。そして介護予防給付から地域支援事業への移行のところは、いち早い情報をいただき、平成27年4月からすべて要支援認定者へのサービスがなくなるわけではないと解って大変安心しました。さらにこれからの高齢者支援の要となるべきケアマネジャーが質の担保をはかることが必要であり、最後には「私たちはプロとして、豊かな暮らしを地域ですっと支えていくという誇りを持ちましょう」とのみ力強い言葉を聴き、深く感銘を受けました。

高崎市地域包括支援センター 小川 みゆき

特別講演会

多職種協働診療における 介護支援専門員の役割

公益財団法人 老年病研究所附属病院
院長 高玉 真光先生

介護保険制度創設時のエピソードから、介護保険改正が繰り返されていくなかでの見直しの要点・当時の苦勞、多職種協働等、ユーモアに富んだ話に聞き入りました。

在宅療養は「サービス提供ではなくホスピタリティの提供」「笑顔の中で納得できる生活と死を受け入れ迎える環境整備」が必要であること。介護支援専門員は多職種協働をしていくうえで、医師との連携・情報共有・カンファレンスが重要であること。また、安藤繁氏著書「多職種協働ケアで必要とされる共通言語の基礎知識」を引用され、医療モデル・生活モデルの説明から「必ず医療モデルがあることを忘れない」「医師との協働・カンファレンスが大切」とお話しをいただきました。

また「多職種協働事例検討会」を開催した時に個人情報についての疑問が取上げられ、弁護士さんを招いて事例検討会をした、という話から「顔の見える関係づくり」「多職種が集まることでの新たな気づき」「共通理解をすることの大切さ」等について再認識することができました。更に「認知症初期集中支援チーム」の活動状況、「居宅療養管理指導費」が介護保険で算定できることなど多岐にわたりお話しいただき、ケアマネジャーとしてとても勉強になりました。

介護支援センター創春館 高橋 豊



第7回日本介護支援専門員協会全国大会 in 山梨

居宅介護支援事業所ゆずりは 野田 勝也

平成 25 年 12 月 14 日 (土)、15 日 (日) の日程で行われた全国大会に参加しました。『これからの生き方を支える～つなげよう!その人の「想」～』をテーマに行われました。シンポジウムでは、「ケアマネジャーは必要ですか?」をテーマに、利用者、ケアマネジャー、医師などそれぞれの体験をもとにした発表があり、利用者からの発表ではALSの診断を受け、まだ十分に資源がない状況のころから、医療と介護をつないで支援してくれたケアマネジャーの役割は大きく強い支えとなった。との発表があり、ケアマネジャーの重要性と課題となりやすい医療連携の重要性を感じました。二日目の一般演題では、第1会場「質の向上に向けた取り組み」に出席し、目標達成するためのケアマネジメントのあり方などケアマネジメントの具体的な取り組みや、ケアマネジャーの備えなければならないものといった、資質の部分など幅広い発表があり興味深い内容となっていました。また、施設ケアマネジャーの必要性や入所者の在宅復帰に向けた取り組み、施設のスタッフの意識の変化を促すための取り組みなど、施設ケアマネジャーならではの課題もありとても勉強になりました。

介護保険制度施行以来、ケアマネジャーへの期待や質の向上が求められています。また、制度のかなめとして重要な役割を持っており、迷ったり悩んだり日々試行錯誤をしながら支援をしているケアマネジャーにとって、それぞれの人がそれぞれの地域で歩んできたケアマネジャーとしての道を共有し支え合いみんなで前進していける。そう感じる全国大会だったと思います。



ケアマネジメント群馬フォーラム XI in 伊香保

ご案内

実行委員長 佐藤 智昭

ケアマネジメント群馬フォーラム XI in 伊香保が、平成 26 年 7 月 13 日（日）に伊香保温泉ホテル天坊を会場に開催を予定しております。

今大会のテーマは、「ケアプランは人生の時間割～こみあげてくる思い伝えていますか?～」と決定いたしました。前号のケアマネ群馬にて田中大会長からご案内があったとおり、利用者ご本人の人生のストーリーを作っていること、そしてその時間割と一緒に考えることを託された重みを再認識するとともに、これからのケアマネジメント業務を行うための元気が湧いてくる、そんな大会にしたいと思っています。

今大会の企画概要ですが、午前中は教育講演を予定しており、医療法人富家会富家病院 理事長 富家隆樹先生にご講演いただく予定です。昼食時は例年通りランチオンセミナーを行い、午後のセッションでは、事例検討会を予定しております。事例検討会については、在宅向け・施設向けの多数の方式に加え、初級クラスも用意して、今まで『事例検討会』と聞くとつい敬遠してしまう方々にも参加しやすいよう考えました。今後、皆様へ配布いたしますご案内の中で各事例検討会の要旨を紹介し、参加される方が選択しやすいような形になっております。

昨年 10 月に、田中大会長・松本副大会長をはじめ、群馬県介護支援専門員協会の理事・学術研修委員、中・北毛地域を中心とした支部長・支部役員等で構成された実行委員会が立ち上がり、毎月会議を開催し、プログラム内容の詳細や大会の運営に関することを検討している状況です。

今回初めて温泉地での開催となり、温泉地ならではの企画も検討しています。参加された方々がケアマネジメントの質を高められると共に、元気になれるフォーラムにしていきたいと考えております。ぜひ皆様の参加をお待ちしております。

「理事会・各委員会の報告」

理事会

会長 折茂 賢一郎

第9回（12月10日）、第10回（1月11日）の理事会では、地域医療再生基金の件（2月18日に説明会開催）、県介護支援専門員実務研修及び更新研修に係る平成25年度群馬県指定研修実施機関公募について（公募は見送りに）、赤い羽根共同募金配分申請（積極的に申請する）などについて協議しました。また支部長会議のメーリングリストやホームページの活性化なども話し合われました。

総務財政委員会

総務財政委員長 松沢 斉

当委員会は相変わらず独自のペースで進んでいます。今年度の県全体および各支部ごとの会員数や、主だった収入および支出も徐々に確定しつつあります。この次はいよいよ一般社団法人となってから初めての“決算”に少々緊張しているところです。結果として収益の上がった事業には“納税義務”も発生するようですし…。次年度の総会でどのような決算報告になるのか、会員の皆様もどうぞお楽しみに。

学術研修委員会

学術研修委員長 安藤 繁

この時期、当委員会は年間を通じてごく短い休息期が得られます。しかしながら、委員個々人はその合間を活用して、各種研修の講師をはじめ様々な活動に多忙です。

今後は皆さまにご協力を仰ぐ地域医療再生基金事業も控えています。どうぞ、皆さま体調に留意されて新年度を迎える準備をしましょう。恥ずかしながら私は数十年ぶりにインフルエンザに罹患してしまいました。皆さま、お氣をつけて…

広報情報委員会

広報情報委員長 藤田 東洋子

1月10日、第5回広報情報委員会を開催しました。会報83号の反省会を行い、84号の検討を行いました。83号のアンケートにご協力いただいた会員の皆様にはこの場でお礼を申し上げます。貴重なご意見ありがとうございました。結果については各委員で担当を決めて集約し、広報誌を通じて皆さんにお返しする予定です。また、今後の協会の活動や広報誌に役立てたいと思っております。

太田支部

連絡先：TEL 0276-32-1212

1月24日(金)、太田市医師会・太田市薬剤師会・太田市介護保険事業者協議会・ケアマネ協会太田支部の合同研修会が開催されました。今回の研修内容は、桐生市で定期的に行われている『見える事例検討会』でした。



前半は東毛敬愛病院の顚原禎人先生より、検討会の目的や活動内容の説明をして頂き、後半は実際に事例検討会を行い、事例提供者として参加させて頂きました。ファシリテーター(進行役)と共に、情報をマインドマップに整理し、多職種の参加者から意見を頂きアクションプランまでを作りあげていきました。見える事例検討会に参加して気付いた事は「地域連携」の重要性でした。顚原先生の「実際に行動するのは地域の人」という言葉通りです。画一的なプランではなく、もっと地域資源を使って、地域で支えていけるような方法を考えていかなくてはと考える良い機会となりました。今後も、利用者様にとって望む生活ができるよう、多職種の方々と共に協力しながら支援していきたいと思えました。

(ケアサービス尾島 飛田 千代子)

吾妻支部 (ケアマネ吾妻の会)

連絡先：TEL 0279-75-6517

12月7日(土)、県ですすめている在宅チーム医療人材育成研修に介護支援専門員協会吾妻支部として13名の会員が参加しました。この研修は、高齢化が進み在宅医療へのニーズが高まるなか、疾病を抱えた方が住み慣れた地域において、介護と連携した在宅医療を受けられる体制を目指すことを目的にしています。原町赤十字病院の笹本先生による基調講演「ながら在宅医が考えたこと」、西吾妻福祉病院の訪問看護師である黒岩さんによる事例発表のあと、グループワークで「吾妻地域における在宅医療の実際と課題」をテーマにしてディスカッションをしました。医師、歯科医師、保健師、看護師、行政職員、MSW、介護支援専門員が70名参加し、吾妻地区にもこんなに専門職の人がいたんだと改めて思った瞬間でした。とても意義のある研修になりました。

(特別養護老人ホームやまゆり荘 田村 広行)

前橋支部（手をつなごうケアマネの会）

連絡先：TEL 027-253-3398

平成26年1月17日（金）前橋市総合福祉会館にて、東京福祉大学の佐々木貴雄先生をお迎えし、研修会が行われました。

「ケアマネジャーが知っておきたい社会保障制度」をテーマに、社会保険（医療・年金制度）や生活保護について、今後の制度改革のポイントを踏まえながらの講演でした。



社会保障制度は、ケアマネジャーが日頃業務を行なう上で疑問に感じながらも、学ぶ機会が少ない分野であり、複雑多岐にわたる制度を基本的な部分から分かりやすく説明していただいた事で、スキルアップが図れたと思います。また、参加者からは実際の事例に基づいた質問や自分自身の質問もあり、制度が現在だけでなく、将来への備えとしても関心がある内容であると感じました。

制度が刻一刻と変化する中、継続的に学習をしていきたいと思います。

（前橋市地域包括支援センター東部 星野 一郎）

渋川圏域支部

連絡先：TEL 0279-56-9201

平成26年1月31日に渋川圏域介護保険事業所『交流会』を開催しました。

この『交流会』は、介護保険スタート時有志で始まったものが人の異動等で途切れたものを、支部役員が有志幹事となり数年前より毎年企画しているものです。今年は、23法人37事業所67名の参加がありました。集



まり始めれば、仕事の調整（お礼や打合せ）、人を介しての名刺交換等すぐに交流が開始されます。（以前は、研修等よろしく隣の席の人紹介等行ったこともありますが、）今は一応の仕切りをするだけで、時間いっぱい交流を楽しんでくださっています。来年も企画を大いに期待されていますが、会場探しが大変になりそうです。

渋川地区では、在宅緩和ケア渋川の世話人会が立ち上り活動し始めています。そこで、先進事例をとおして、介護支援専門員もその役割を理解できるよう定例会を行う予定です。

平成26年3月19日（水）18：30～吉岡町文化センター2階視聴覚室
講師に、NPO 法人在宅福祉かんわケア大地

居宅介護支援事業所さくら管理者 新井 薫氏をお招きします。

（特別養護老人ホーム清流の郷 村上 忠明）

アンケート協力のお礼

会報 83 号でお願いをさせていただきました、「アンケート」のご協力ありがとうございました。掲載につきましては、今後の会報で随時紹介させていただきます。

25 年度実務研修受講終了の皆さまへ

本会は、平成 25 年 4 月より一般社団法人 群馬県介護支援専門員協会として生まれ変わりました。当協会は会員の皆様の会費で運営しております。会員の皆様には会の目的であります、群馬県内におけるケアマネジメントの普及・発展並びに介護支援専門員の社会的地位の向上に努めるとともに、会員の学術・技能の研鑽、人格・資質の向上を図り、もって群馬県民の健康・福祉の増進および群馬県における保健・医療・介護の向上・充実に寄与することという目的をご理解いただきまして、是非この機会にご入会いただきますようお願いいたします。理事会をはじめ、総務財政委員会、学術研修委員会が皆様の代表として運営に当たっております。また広報情報委員会では、ホームページを立ち上げ皆様に情報を発信し、会報では報告事項を中心に 2 ヶ月に 1 回作成してお手元にお届けしております。

編集 後記

久しぶりの編集担当でした。昨年、急遽担当を代わってくれた M さんに感謝して、張り切って年明け委員会の日を迎えました。今年は自分の生まれ年、いくつかは差し控えますが、2 ヶ月前のざっくり腰がなかなか良くなりません。腰痛で家事の辛さを実感している今日この頃です。

4 月より新年度、異動のある人もいると思いますが、異動のない人も心機一転、目標を持って公私共に充実した一年にしていきたいと思います。(HK)